水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

ニシン資源の回復を目指して！！

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村上, 直人 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009822

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

研究情報

ニシン資源の回復を目指して!!

昭和57年から厚岸ニシン資源を栽培漁業によって回復させるための技術開発に取り組み、当時10トン以下であった漁獲量は平成20年には300トンを超えるまで回復してきました。

（栽培技術研究室　村上直人）

日本周辺に棲息するニシンは、明治から昭和初期に北海道沿岸で大量に漁獲された北海道・サハリン系ニシン（春ニシン）のように、日本海から太平洋まで広範囲に回遊する系群とは別に、地域性ニシンと呼ばれる系群が数群存在します。地域性ニシンは回遊範囲が狭く、産卵場への回帰が考えられることから、栽培漁業の対象種として注目されてきました。

海区水産業研究部栽培技術研究室では、昭和57年から厚岸湾および厚岸湖に産卵する地域性ニシン（厚岸ニシン）を研究対象として、地域性ニシンを栽培漁業によって回復させるための技術開発に取り組んでいます。

技術開発に着手した当時は、厚岸ニシンの漁獲量は極めて少なく、産卵親魚の確保すら困難なため、未成魚を親魚に養成して産卵、種苗生産を開始しました。昭和62年から厚岸湾での種苗放流を開始しました。その後、厚岸ニシンの漁獲は増減しながらも増加傾向を示し、今年（平成20年）は336トン（9月末までの暫定値）と34年ぶりの大漁を記録しています（図1）。

厚岸湾でのニシン放流風景

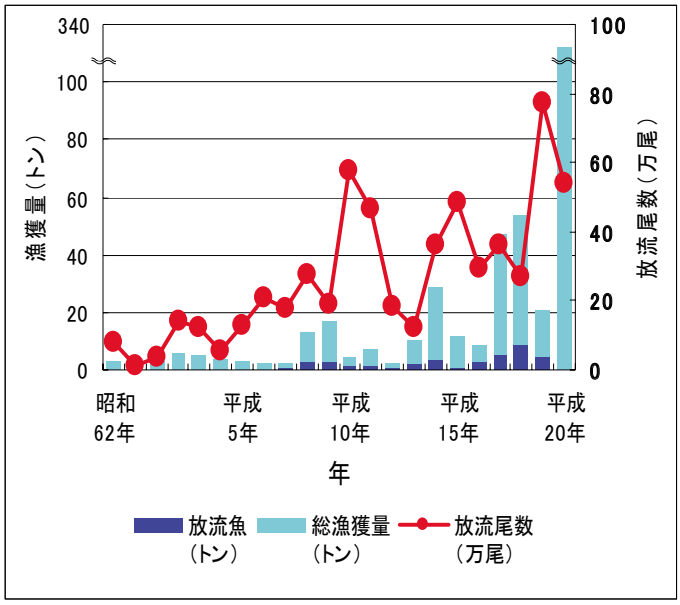

図1　厚岸ニシンの漁獲量と放流尾数（平成20年9月30日現在）

放流種苗を追跡調査した結果、厚岸湾に放流したニシンは、ほとんど厚岸魚市場で水揚げされ、水揚げ量の10～30%を占めることが明らかになりました。厚岸魚市場に水揚げされるニシンは1～6歳で、そのほとんどが2歳魚の産卵群で占められています。今年の大漁は、2年前（平成18年）の水揚げが52トンと豊漁で産卵親魚数が多かったことに加えて、卵・仔稚魚の生残も高いなどの良好な条件が重なったことが原因と考えられます。

近年の資源の増加に伴い、資源における放流種苗の割合は減少しています。今後、さらに資源の増大やニシン漁を安定して続けていくためには、資源量の変動にあわせて適切に漁獲することが望まれます。栽培技術研究室では、厚岸ニシンの資源量の動向調査や、資源量の変動に大きく関与する卵・仔稚魚期の生態調査に加えて、北海道釧路地区水産技術普及指導所、厚岸町、厚岸漁業協同組合と協力して、仔稚魚の生き残りに関与する水温や餌生物などの環境調査への取り組みを開始しました。引き続き、資源量の動向や変動要因に関するデータの蓄積を図り、適切な漁業管理に繋げていきたいと考えています。